

# 次は2020年、東京。自分の努力を楽しんで、後輩と一緒に頑張りたい。

飯塚翔太  
氏  
(ミズノ)

リオデジャネイロ五輪  
陸上男子400mリレー 銀メダリスト



改良を加えたアンダーハンドパスを武  
その立役者のひとりとなった飯塚翔太  
新記録を叩き出した瞬間の心境、母校

器に、リオ五輪にて見事、銀メダルを勝ち取った陸上男子400mリレー・日本代表チーム。  
選手が、9月12日に母校・中央大学へ凱旋に訪れた。予選、決勝戦と、連続してアジア  
への思いを、今、打ち明ける――。

## 極度の興奮と集中。そして、楽しむ気持ちが生んだ銀

日本、そしてアジア新記録で予選を突破したあの日、一瞬、みんな喜んでいました。けれども、いつも決勝でバトンパスをミスしていたので、すぐに気持ちを引き締めて「これよりもっとタイムを上げよう」と、桐生君、ケンブリッジ君、山縣君と話し合いました。

そして、決勝戦の8月19日。会場に入場すると、叫んでも自分の声が聞こえないくらいの歓声があり、4人でサムライポーズ（入場時のパフォーマンス）をすると会場がさらにワッと沸きました。この瞬間から、大会を楽しむ雰囲気変わったと思います。いよいよ、出走直前。アドレナリンと集中で視野が狭くなって、耳も遠くなり、歓声が次第に小さく聞こえました。体がぶるぶると震えだして、それが最高でもあった。「早く走りたい!!」って気持ちが、頂点に達しました。

結果は予選記録更新の37秒60。37秒中盤は出る予想していたので、目標は達成できました。海外の人たちからすると、僕らが銀を獲ったことがサプライズだったようです。海外メディアから、アンダーハンドパスについて質問を多く受けました。尊敬するボルト選手（ジャマイカ代表）から話しかけてもらったのも、銀メダルが獲れたからこそ。リオで、貴重な経験ができました。

## 中央大学で繋ぐ意志。後輩とともに、2020年を目指す

大学生時代は4年間、陸上競技部の学生寮で生活していました。挨拶や掃除、下級生として先輩に対する敬意などが身につきましたね。今でもかなり、活かされています。卒業してからも同期の選手たちとは会っていて、いい刺激になっています。後輩とも普段から連絡を取り合っていて、彼らの活躍は常に気にかけています。後輩たちが400mリレーで優勝した9月開催の全日本インカレ（天皇賜盃 第85回日本学生陸上競技対校選手権大会）にも応援に行きました。このリレーチームの後輩たちには先ほど会いに行っていて、銀メダルを持たせてあげたら「重たい」と言っていました。こうした触れ合いをすることで、後輩も気持ちが引き締まると思うし、身近な人間が五輪に出たということは現実味が増して「いずれは自分も」と自信になると思うんです。なにはともあれ、後輩や教職員のみなさんに温かく迎え入れてもらい、母校にこうして銀メダルを持って帰れて、本当によかったという気持ちです。

今後の目標としては、まずは9月末の全日本実業団対抗陸上競技選手権大会で力を見せつけられれば、と思います。2020年の東京では、個人の決勝とリレーのメダルを、もう一度。その頃には、僕の後輩も五輪を狙えると思います。全日本インカレのリレーでは、僕の学生時代から後輩たちの世代まで、優勝という形で繋がっています。2020年は、後輩たちと一緒に頑張りたいですね。

今回の五輪の結果で世界から注目されると思うので、銀メダルを獲ったことに胸を張り、自信を持って次回に挑むべきだと感じます。メダルを獲りにいきたいです。

理事長、総長・学長に報告



本学にて、銀メダル獲得を報告。左より理事長 深澤武久、飯塚選手、総長・学長 酒井正三郎。



インカレで4連覇を果たしたリレーメンバー。左より竹田一平さん（経2）、諏訪達郎さん（法4）、飯塚選手、谷口耕太郎さん（商4）、川上拓也さん（法3）、日吉克実さん（文3）。5名のうち唯一、飯塚選手とリレーの経験がある谷口さんは「みんなに平等に接してくれる、温かみのある先輩。飯塚さんの活躍を見て、僕たちも負けていけないと感じています」と、意識を高め合っている。

現役時代の飯塚選手はどんな選手でしたか？



陸上競技部  
豊田裕浩コーチ  
飯塚選手在学時代、  
コーチとしてサポート。  
現在も専属コーチ  
として指導している。

学生時代も今とあまり変わらないですね。メリハリがはっきりしている選手です。オンの時は本番に強い。五輪を決めるレース前には、前回大会、今回と怪我に見舞われて、万全ではない時が確かにありました。それでも、本番では結果が残っている。これは、努力と才能、両方が備わっているからだと思います。

### profile

法学部 2014年卒業 種目：陸上短距離

1991年生まれ、静岡県出身。小学3年生の頃に陸上競技と出会い、中学生時代には全国大会で優勝。高校3年の2009年、全国高等学校総合体育大会（インターハイ）200m、国民体育大会100mで優勝。2010年に中央大学に進学し、世界ジュニア選手権200mにおいては、日本人初となる金メダルに輝く。2012年にはロンドン五輪に出場し、陸上男子400mリレー4位の成績を残す。2013年に東アジア大会400mリレーにて日本学生記録を樹立。卒業後はミズノに所属し、2014年アジア大会400mリレー準優勝、1600mリレー優勝。2016年の日本選手権200mで20秒11の自己ベストを記録（日本歴代2位）。2016年8月に行われたリオ五輪陸上男子400mリレー決勝で第二走者として出場し、アジア新記録の37秒60で見事銀メダルを獲得。リオ五輪後に行われた9月の第64回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会200mで優勝。

## Rio 2016 Rio de Janeiro 出場者紹介

山下 敏和 氏（1999年 高学部卒：自衛隊体育学校）  
男子エアライフル 予選 36位  
男子ライフル伏射 予選 41位  
男子ライフル3姿勢 予選 22位

羽野 一志 氏（2014年 法学部卒：NTTコミュニケーションズ）  
7人制ラグビー 4位入賞  
※一次リーグから準決勝、3位決定戦まで全試合出場。一次リーグケニア戦では貴重な先制トライを挙げるなど、チームの勝利に大きく貢献。

コーチ <リオデジャネイロオリンピック> 陸上競技部OB 大澤陽祐 氏 /

塩浦 慎理 氏（2014年 法学部卒：イトマン東進）  
競泳男子400mリレー 第二泳者 8位入賞  
※1963年のメキシコシティー大会以来48年ぶりの決勝進出。  
競泳男子50m自由形 予選14位で準決勝進出（準決勝16位）  
競泳男子100m自由形 予選27位

小長谷 研二 氏（2010年 法学部卒：岐阜西スポーツクラブ）  
競泳男子400mリレー 第三泳者 8位入賞  
※1963年のメキシコシティー大会以来48年ぶりの決勝進出。

自転車競技部OB 飯島誠 氏 / 柔道部OB 廣川充志 氏 <リオデジャネイロオリンピック> ボート部OB 大戸淳之介 氏

## <リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック報告祝賀懇親会を開催>

2016年10月1日、中央大学駿河台記念館にて、中央大学学員会、中央大学学員体育会の主催で盛大に行われました。当日はリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックに出場された選手5名、コーチ4名のうち、選手では陸上部OBの飯塚翔太氏と水泳部OBの小長谷研二氏、コーチでは柔道部OBの廣川充志氏、ボート部OBの大戸淳之介氏の計4名が出席され、関係者へ報告がなされました。司会は落語研究会OBの桂やまと氏が務めました。